

本論文は

# 世界経済評論 2024年3/4月号

(2024年3月発行)

掲載の記事です



世界経済評論

## 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

# グローバルサウスの人的投資が 花開きつつある現状を直視せよ



株式会社国際社会経済研究所理事長

藤沢 久美

コロナ禍を経て、4年ぶりにナイジェリア、セネガル、ケニア、ドバイ、アブダビと5か国を訪問した。噂には聞いていたものの、コロナ禍における各国の変化は、想像を超えるものであった。それは高層ビルや鉄道、道路といったハードインフラだけではなく、人財というソフトインフラの変化だ。

アフリカでは、現地のスタートアップ10社の創業者と面談したが、米国等の一流大学院を卒業した創業者が大半で、事業プレゼンテーションには、必ず、「自社が取り組む社会課題」「気候変動への挑戦」「ダイバーシティ」の3つのポイントが説明されるなど、世界標準の経営方針と視野を持ち、グローバルなアルムナイネットワークを生かしていた。中でも、ケニアのKOKO社では、貧困層へのバイオエタノールを使った家庭用コンロを安価に提供しているが、その背景には、家庭燃料の炭からバイオエタノールへの転換によるカーボンクレジットを海外市場で販売して得た利益を生かし、将来のカーボンクレジットを担保にした資金調達を行い、世界各国から優秀な人材を採用し、事業を拡大していた。

また、ナイジェリアでは、既存企業において女性経営者も多く、大手金融機関のトップのほとんどが女性であった。彼女たちもグローバル

企業で要職を経験し、ヘッドハンティングされたようだ。少なくとも、ナイジェリアやケニアでは、性別に関係なく能力次第で要職を担う環境がある。スタートアップが勃興し、ダイバーシティに富むこれらの地域は、もはやグローバルな競争環境に置かれており、「貧しいアフリカを支援したい」という上から目線で参入する日本企業の居場所はない。

続いて訪問したドバイとアブダビでは、王族や富裕層の子息たちが、欧米の教育を受けて、グローバル水準の経営能力を身に付けていたことに隔世の感を感じた。かつてビジネスオーナーは王族や富裕層であり、経営は欧米人が担っていたが、今では、現地の子息たちが経営を担い、そのアシストとして欧米人を採用する状況へと変化していた。

グローバルサウスは、この10年間で人への投資を積極的に行い、確実に人的資本の価値向上を実現したようだ。資金と資源と人財をそろえたグローバルサウスの未来は希望にあふれている。かつての栄華の幻から抜けきれない日本も、本格的かつ実質的な人的投資をしなければ、世界に貢献するどころか、活躍する場もなくなっていくのではないかと強い危機感を感じた。

(ふじさわ くみ)